

DJ Magazine 6月号(2018)

ドキュメンタリージャパン

vol.28 2018.6.1

映像制作会社ドキュメンタリー
ジャパンが今月お届けするテレビ
番組や映画のお知らせです。

1
Topics

スーパープレミアム

桐谷健太 熱帯の氷河 キリマンジャロに挑む

放送予定: NHK-BSプレミアム 6月30日(土) 午後9:00~10:29



つづき
制作スタッフの

苦しかったです、キリマンジャロは…初めてのアフリカで体感した様々な記憶が脳から吹っ飛んでしまうぐらいに…山頂では隊列より先行して受けを撮るため、昇天しそうになりながら這いつくばるように登り、フラフラで撮影。その画は無事本編で使って頂けました。山の上の青白く透き通る氷河、眼下に広がる雲海と真っ青な空、桐谷さんとスタッフの勇姿。高精細な4K映像で皆さんにお届けします。乞うご期待!

カメラマン 池田 健

赤道直下で氷河を頂くアフリカ最高峰のキリマンジャロに、登山経験のほとんどない桐谷健太が挑む。まずは高度順化のために4000メートル近いメルー山に登頂。その疲労回復の間に、キリマンジャロのそばにある野生動物の楽園ゴロンゴロ自然保護区を訪れ、保護区に暮らすマサイ族から動物との共存の難しさを知らされる。目の前のキリマンジャロの氷河も、温暖化によって急速に失われているという。キリマンジャロは雨期に突入、登山は困難を極める。酸素濃度は平地の半分、天候の変化から急遽最終アタックをすることになった桐谷は、山頂に立つことができるのか?アフリカの大地と神の山、そして人間と自然の関係を、桐谷健太が全身で体感する紀行番組。



「密着!プリンスたちの学び舎」 ~スイス 名門寄宿学校~

2
Topics

放送予定: NHK-BSプレミアム 6月6日(水) 午後9:00~10:29

つづき
制作スタッフの

めざせ、世界の秘境!からスタートした企画。世界を見渡しても先人の足跡ばかりが目立ち、かといって過酷な自然に挑む勇気もなく…見つけた秘密の花園が学生寮。予測不可能だったプリンスという要素も加わりましたが、生徒たちがのびのびと暮らす空間にお邪魔できたことは、本当に幸運でした。人生やり直したい!と眠れない取材が続きましたが…誰かに明るい未来があることは、自分にとって幸せなことなのだと小さな希望を見つけたような気がします。

ディレクター 永井 朝香



スイスの名門校・ボーソレイユ。世界の王室のプリンス・プリンセスも学ぶ寄宿学校です。現在、世界54か国から240人の生徒(11歳から18歳まで)が学んでいます。生徒の自主性を重んじ、授業は少人数制。科学から歴史、美術にいたるまで、授業では徹底的な議論が中心です。リゾートホテルかと見まごうばかりのビュッフェやジム、プール、劇場まで備えた校内に、併設された寄宿舎では、異なる国籍や文化を持つ2人部屋が基本。リーダー育成の特別なカリキュラムとは?!これまで見ることのできなかった21世紀流帝王学、その現場を爆笑問題・田中裕二さんのナレーションで誘います。



Topics 3

世界はTokyoをめざす

貧しさを超えて飛べ！～ザンビアハンドボール・日本人コーチ～(仮)

放送予定：NHK-BS1 6月10日(日) 午後8:00～8:49



アフリカ南部・ザンビア共和国のハンドボールナショナルチームの監督を引き受けたのは、若干25歳の日本人、芳村優太さん。アフリカ最貧国のひとつで、十分な活動資金も練習場所もないザンビア。選手達のほとんどが10代で、貧困から学校に通えなくなった者も多い。そんな彼らにとってハンドボールで活躍することは人生を変える大きなチャンスだ。南部アフリカ大会優勝を目指し奮闘する選手と芳村コーチの挑戦の日々を追う。

News

カナダ・トロント ドキュメンタリー映像祭 Hot Docsに参加して



「映画祭の良さは作品を広く見てもらえ、違う文化圏に迎えられる喜びを感じられることだった。ぜひ、また挑戦してみたいと思う。」



ディレクター 日向史有

今年、25周年のHot Docs。11日間で20万人の観客を集め、200のドキュメンタリーが上映された。私たちが制作した「東京クルド」は、昨年のTokyo Docsの発表を機に、今回の上映に繋がった。トロントの中心地、高層ビルのシネコンでの上映。外にはチケットのキャンセルを待つ長蛇の列。ドキュメンタリーを取り囲む状況が日本と違いすぎて圧倒された。上映される喜びもあったけれど、観客の反応が気になり客席ばかり見てしまう。でも、上映後に寄せられた沢山の感想に安堵した。観客は皆、「世界の人々」ではなくカナダに暮らす普通の人たちだったからだ。作品の主人公である18歳のクルド人少年を心配し、温かい言葉をくれる。映画祭の良さは作品を広く見てもらえ、違う文化圏に迎えられる喜びを感じられることだった。ぜひ、また挑戦してみたいと思う。

第22回

プロデューサー 橋本佳子

【連載】リレーコラム『ドキュメンタリーは〇〇である』

～ドキュメンタリー日本のスタッフが紡ぐ『ドキュメンタリー』と『ワタシ』の関係～



ドキュメンタリーは“~~時代~~”である。

テレビの世界に足を踏み入れて以来そのほとんどをドキュメンタリー番組や映画の制作に関わってきた。向き合ったどの作品もその時代の鏡であり申し子であると感じている。あの1968年から半世紀。時代はまわる。いま、激しく動く時代のうねりのなかで何を作ることが出来るのか。

バトンを渡す相手

⇒プロデューサー 柚口三奈子さん

幅広いジャンルで活躍するプロデューサーの話を聞きたい!!

制作中の番組



その他、多岐に渡る作品を制作中です！
詳細はドキュメンタリー日本のHPまで。

編集後記

厄年はとうに過ぎた。しかし、このところのアクシデント続きはどうかしている。思いもしない方角から次々と礫が飛んできて、都度、平身低頭で謝ったり、懺悔行脚をしたりしている。と、浮かない表情の私にスタッフが耳元で囁いた。「〇〇神社がきくらしいっすよ」…きく？効く？利く？溺れる者は藁をもつかむ。1時間半かけて、私はその地に足を踏み入れた。お賽銭ははずみ、頭をたれ、ひたすら祈る。そして、帰宅した私に娘が言った。「あそこって去年のパワースポットだよ」…今年じゃダメなのか？今年はどこへ行けばいいのか？誰か教えてください(涙)

(M.Y)

Design by HARIMA koutarou